



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	6. 留学生指導(2002年度・2003年度前学期)
Author(s)	太田, 孝子
Citation	[岐阜大学留学生センター紀要 = Bulletin of the International Student Center Gifu University] no.[2003] p.[94]-[101]
Issue Date	2004-03
Rights	
Version	岐阜大学留学生センター (The International Student Center Gifu University)
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/3416

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

6. 留学生指導

留学生センター教授 太田孝子

今回は既述の通り、2003年9月までを対象としているため、2002年4月から1年半に及ぶ期間中に留学生指導部門が行った主な活動を以下に報告する。

1. 留学生に対する指導・相談活動

1.1. 指導部門の体制

後述する相談は従来と同様に留学生指導担当者が全面的に行い、必要に応じて相談者の指導教官、関連部署の担当者、センター長、留学生課等に助言や具体的な協力・相談をお願いした。開室時間については当年もほとんど意味をなさず、留学生は時間外にも相談に訪れたがその都度対応してきた。相談内容の概要は以下の通りである。

1.2. 相談の概要

1.2.1. 相談件数とその内容（数字の前半は2002年度分、後半は2003年前期分の相談件数を表す）

(1) 相談件数とその内容

[留学生からの相談]

(a) 学業関係 (126件・54件)

授業・研究関係、大学院受験（入試の手続き・専門の内容などについての問い合わせ、願書等の記入依頼・記入方法の説明、チェックなど）、日本語関係（オリエンテーション、共通教育・日本語補講・予備教育の日本語の内容、プレースメント・テストの日程、教室、時間割の問い合わせなど）の連絡・運営、家族の留学呼び寄せ関係（指導教官の選出・依頼・諸手続、退学関係・指導教官・留学生課・学部事務との相談・連絡）、など

(b) 生活一般 (48件・20件)

各種オリエンテーション（連絡・説明など）、銀行関係（カードの作成、カード紛失、振り込み・引き落としの手続き、自国への送金など）、旅行・交通関係（アクセス・時刻表調べなど）、大学祭関係、クレジットカードの申請書作成、保育園入園関係（市役所への申請書の記入、配偶者のアルバイトの証明関係）、など

(c) 経済問題 (43件・19件)

授業料免除（申請の方法、申請書の記入、決定に対する不満等）、奨学金一般に関する質問、各奨学金への申請・手続きの相談、貸付制度の利用・返却手続き、アルバイト・求職、など

(d) 住宅問題 (27件・18件)

国際交流会館関係（单身室での家族の同居問題、オリエンテーション、入居、入居延長などの手続き等について、掃除、当番をしないなど入居間のトラブル、など）、民間アパート探し・入居・家賃などの問い合わせ・不動産屋・家主との連絡・交渉・退去手続き、など

(e) 健康問題 (11件・14件)

病院への付き添い, 健康診断の説明・問診票の記入・健康診断の手伝い・諸連絡, 保健管理センターへの健康診断書の依頼・記入, 薬の説明, 病院の紹介, など

(f) 入管関係 (48件・21件)

ビザの変更(旅行から留学へ), 滞在延長・一時帰国・家族の呼び寄せに関する質問・書類の記入・名古屋入国管理局への問い合わせ・連絡, 学部・留学生課事務への証明書発行の依頼・手続き方法の説明, 結婚・出生証明書の翻訳, など

(g) 市役所関係 (21件・10件)

外国人登録関係, 国民健康保険加入手続き・保険料の訂正, 保育園入園関係, など

(h) トラブルの相談 (35件・19件)

学生の私的トラブルへの対応, セクハラ問題に対する対応, 事故後の処理・保険関係, 紛失, 自転車盗難, など

[日本語研修コース研修生関係] (32件・21件)

各種オリエンテーション, 出迎え, 会館入居・退去, 大学院受験の願書の説明・記入, など

[日本人学生からの相談] (53件・40件)

留学に関する一般的質問(サマースクールを含む), 協定校等への応募から出発・帰国後の相談, 学業その他の相談, 同好会の発足・月例行事の相談, など

[大学内外関係] (43件・17件)

岐阜大他学部からの問い合わせ(留学生の受け入れに関する指導教官からの相談, 親族への面談・学生の調査など), ドイツ人学生との交流会関係(受入団体との連絡, 学生の選抜, 事前研修会, 事後報告など), 非常勤講師からの相談, 留学生の家族からの相談, など

計 736件 (487件・253件)

1.2.2. 相談の特徴

相談件数は昨年とほぼ同数であるが, 入管・市役所関係が減少傾向にあることから, オリエンテーションでの説明の効果が徐々にではあるが浸透しているものと考えられる。また, 留学生課などとの協力・連携が比較的スムーズにしていることも重要な要因になっているといえる。当該期間の相談の特徴を, 以下にまとめておきたい。

(1) 留学生本人および国の事情により一度退学・帰国した学生の再入学に際してのビザ取得, 家族呼び寄せによる留学あるいは来日する親族のビザ取得問題などに代表されるように, 2002年度は特にビザ取得に関する相談に時間をさくケースが多かった。一例を挙げると, 本人が出身国以外の国に行ってビザを取得しようとして取得不可の説明を受けても納得せず, 二度も同様の行動をしたため, その国の日本大使館から留学生指導担当者にも電話が来る等, これまでにない状況が起こった。留学生及び家族の勝手な思い込みが強かった上, 同国人留学生に通訳をお願いして何度説明してもその内容を曲解したことなどが原因であったが, 勝手な行動が複雑な事態にまで発展した事例であった。他方, 親族に関しては, ビザ取得の遅れによる来日日期の変更などで, 入管と何度も交渉しなければならない事態が起こった。ビザ取得までの日数を十分考慮していないことや提出書類などの不備が原因であったのだが, いずれにしてもビザ取得を簡単に考え過ぎている留学生が多いことを痛感した。

(2) 授業料免除に関する相談が相次いだ。決定に対する不満、疑問などを訴えるケースが多く、厚生課に出向き、担当者から決定に至るまでの説明を受けた上で相談者に説明した他、所属事務、指導教官などと連絡を取り合い対処した。日本語で書かれた授業料免除に関する規定が理解できなかったことも原因の一つであったが、留学生の所属部局の履習届の提出方法や履修科目数の数え方にも問題があったため、最終的には部局内での話し合いにより一部の留学生の問題は決着をみた。「授業料免除」は必ず受けられるものではないのだが、それを当然として主張を繰り返す留学生の姿勢により深い問題を感じた。

(3) 国費留学生の中途退学者が例年より多く、その手続き等に関わった。退学の理由は他の奨学金が貰えた、他国で勉強する道が開かれた、などであるが、中途退学する留学生は例外なく最初から本校を希望しての留学ではないことが明らかであり、奨学金受給者の選抜方法に疑問を感じるような事例もあった。他方、所属研究科の課程を変更する国費留学生の相談も増加した。国から希望する課程に在籍するだけの年月が許可がされず、他の課程に変更して在籍するという方法を対処したのだが、初めからその旨を説明したのにもかかわらず受入れた部局もあり、大学側の対応の仕方の問題を感じるケースもあった。留学生受入れに際しては提出書類の内容の確認を十分に行ない、慎重な受入れを望みたい。

(4) セクシャルハラスメントの相談が起こり、関連部署と慎重に相談を重ねながら対処した。当事者の異動により一応の解決をみた。

(5) 内モンゴル、中国からの研究生が増加し、それに伴う諸々の問題に対応した。酒田短大の留学生問題が大きくクローズアップされたこともあり、岐阜大学の受入れに関する甘さが問題になった。その結果、教育学部では研究生の願書や提出書類の見直しを始める等の動きもみられるようになった。また、環境流域センターの一教官からは受入れ前の相談があり、来日希望者の親族（岐阜大に在籍）に面談し、経済面、日本語能力などのチェックを事前に行った。その結果と、指導教官による研究計画などのチェックとを併せて総合的に判断して受入れを決定するなど、一部には改善の動きも見られた。しかし、留学生の受入れに関する問題は、依然存在していると感じている。

(6) 「岐阜世界友の会 (GWY)」からの依頼による「ドイツ人学生との交流」(2003年3月18～19日)のために、全学部から17名の日本人学生と3名の留学生を招集、事前研修会を開催したり、プレゼンテーションの指導・相談、主催者との諸連絡などを担当した。また、同時期に岐阜大学留学生センター主催のフォーラム「地域における日本語教育 - 岐阜地域の多文化共生を考える -」が開催されるなど、行事が集中したため、アルバイトを頼んだ日本人学生との連絡・指導などが重なり多忙であった。

(7) 日本人学生からの相談は、①授業や論文など学業に関する相談、②留学や勉学に関する相談、③留学生等との交流に関する相談・連絡が主であり、件数も増加している。②は留学先の情報収集、留学先の選択、手続きの方法などに対する質問と共に、語学（ほとんどが英語）の学習方法、TOEFLに関する質問が多かった。留学に関しては、協定校への留学と共に私的な留学（主に語学留学）も微増している。なお、2002年度より日本人留学生に対しても、「岐阜大学短期留学（派遣）奨学金支給制度」による学資援助が開始されたため、2名の学生が面接を経て選出された。③では種々のイベントの内容や場所の確認・連絡、留学生への宣伝や参加者の招集、授業への参加依頼や連絡などであった。留学生との交流も「RyugakuLove」「国際交流クラブ」などを中心に活発に展開されている。

(8) 岐阜大学主催のサマースクール（派遣）は 2002 年度は①オーストラリアのグリフィス大学（7月29日～8月16日の3週間コース，8月5日～8月16日の2週間コース，8月19日～9月20日の5週間コース）に計11名，②中国の浙江大学（8月5日～8月30日の4週間コース）に5名，③アメリカのユタ大学（8月19日～9月13日の4週間コース，8月19日～9月27日の6週間コース）に計5名が参加した。2003年度はイラク戦争，SARSなどの影響により，オーストラリアのグリフィス大学（8月25日～9月26日の5週間コース）一校のみで実施し，7名が参加した。出発前に説明会やガイダンスを行ない，帰国後は例年のように反省会を行うとともに体験記も発行した。2002年度からは，従来の『岐阜大学夏期短期留学サマースクール』という受け入れの報告書に合本し，刊行することになった。

1.2.3. 相談の背後にある問題の特徴

上述した相談の背後には，主に以下のような要因が指摘できる。(1) 再入学，ビザ・入管関係，国民健康保険，病院，奨学金・授業免除関係など自国のシステムとの相違による誤解や個人の思い込みなどが原因で寄せられる相談，(2) 留学生会館や研究室での人間関係・生活上の種々のトラブルなど文化的価値観の相違によって起こってくる相談，(3) 日本語能力の問題により，配布物・掲示物，郵便物，諸手続等が理解できないことによる相談，であり，分類上は例年とほぼ同様である。(1) および(3)は，留学生に理解できる説明や分かり易い簡単な日本語，または他言語を使用した書類の配布により，かなりの改善ができるものと考ええる。また，(2)も，本質的にはお互いを尊重し，仲良くやっつけようとする姿勢によって解決できるような問題が多く，これはどの国においても重視される姿勢だといえる。少なくとも留学を志した留学生にはそのような相互理解への姿勢を求めているものである。

2. アンケート結果

該当年も9月および3月のコース修了時に生活面を中心としたアンケートを計3回行った。日本語研修生（12期生，13期生，14期生），第1期日研究生および交換留学生，計27名から回答があり，以下のような結果を得た。

- ・日本への留学の動機（複数回答）
- ・日本の文化や社会に興味があったから（17）
- ・奨学金がもらえたから（10）
- ・専門分野のレベルや研究内容がよかったから（6）
- ・外国で学んだり生活したかったから（10）
- ・その他（7）・・・サマースクールで岐阜大学に来たことがあり岐阜の様子を知っていたから（2）
サマースクール終了後から岐阜大学に来ようと計画していた
岐阜の環境，印象が良かったから
他の国で勉強したこともあるので日本でも勉強してみたかったから
国の研究室の同僚から岐阜大学のことを聞いたので
以前，日本の他の地域で勉強したことがあるので

・会館での生活について

*何か困ったことはなかったか

- ・なかった (24)
- ・あった (3)・・・空港から送った荷物がすぐ届かなかったので3日間着替えができなかった (1)
日本に到着したとき体調が悪かった (1)
すぐ換金ができなかった (1)

*誰が助けてくれたか・・・同国の友達 (17)

- 太田先生 (8)
- 指導教官 (3)
- 同じ階の留学生 (3)
- チューター (2)
- 留学生課のスタッフ (2)

*どんな助けが必要だったか

- ・補食室の物の置き場や器具の使い方, 当番の仕事の説明など (7)
- ・ゴミの分別・出し方の具体的説明 (7)
- ・ガス, 洗濯機, エアコンなどの使い方 (4)
- ・国際電話のカードの入手法, 使い方, 内線電話のかけ方 (3)

以上の4つは, 来日直後の担当者による説明だけでは理解できなかったとの回答が付記されたものが多かった。

- ・食料品や日用品の買い物 (3)
- ・携帯の買い方 (2)

*会館に対する意見

- ・共通の場 (食堂, シャワー, ランドリー, トイレ) がとても汚いし, 当番が責任を持たない (16)
- ・会館のルールを守らない人がいる (7)
- ・食事やパーティなどの後片づけがきちんとできていない (4)
- ・同じ国の留学生が食堂などで大勢集まって話していて騒々しい, 迷惑 (4)
- ・日本語の掲示物の意味がよく分からない (3)
- ・会館の住人ではない人が来て, 料理などをしている (2)
- ・ロビーや補食室の電気, 冷暖房が人がいないときでもついていることがあった (2)

*管理人について

- ・ほとんどコミュニケーションを持たなかった (13)
- ・よく怒る (5)
- ・話し好き, 面白い人 (4)
- ・とてもいい人だと思う, 何かお願いすればやってくれる (4)
- ・時々言っていることが理解できない (4)
- ・コミュニケーションには問題がなかった (3)
- ・注意の仕方がうるさい, 大きな声で注意しすぎる (3)

- ・あまりいい印象が持てなかった (2)
- *チューターについて
 - ・普通 (14)
 - ・よく助けてくれた (9)・・・しかし、チューターによる、全然話したことのないチューターもいる
 - ・何も助けてもらわなかった (4)
- *チューターの印象
 - ・いい人 (7)
 - ・よく挨拶をしてくれたり、話してくれた (7)
 - ・ほとんど会わなかった (7)
 - ・もっと留学生と仲良くしたり話したりすればいいと思う (4)
 - ・特に印象はない (2)
 - ・人によっては何もしていないチューターもいる (1)
 - ・チューター全員を知らない (1)
- *チューターに対する希望
 - ・会館のルール (特に掃除当番) に従うように指導してほしい (15)
 - ・ゴミの出し方や掃除を率先して教えてほしい (3)
 - ・問題があった時に助けてくれればそれでいい (3)
 - ・日本語のイベントなどの掲示を分かりやすく説明してほしい (3)
 - ・もっと会館にいて、チューターであることを示してほしい (3)
- *会館での人間関係
 - ・ほぼ友好的だった、色々な国の留学生と知り合うことができた (13)
 - ・人間関係で特別な問題は起こらなかったが、当番を全くしない人もいてひどいと思っていた (7)
 - ・勝手な人や騒々しい人、ルールを守らない人がいたが直接注意することはできなかった (4)
 - ・会館は楽しかった (4)
 - ・同じ国の人が集まったり、その国の言葉で話していたため、親しくなる人が限られていた (2)
 - ・ほとんど同国人でしかも同じクラスの人と一緒に行動していた (2)
- *日本人の友達はできたか、それはどんな友達か
 - ・できた (25)・・・「RyugakuLove」の日本人学生 (13)
 - 同じ研究室・学部の学生 (8)
 - 日本語のクラスに参加してくれた日本人学生 (5)
 - 回答者の国に行ったことのある人、外国に住んだことのある人 (2)
 - 回答者の国に興味を持ってくれたり、言葉のできる人 (2)
 - ・無回答 (2)
- *会館への希望
 - ・もっと清潔な環境にしてほしい (15)

- ・同じ国の留学生を大勢同じ階に入れなくてほしい (6)
- ・もっと多数の学生が住めるように部屋数を多くしてほしい, 日本人の入居者も多くしてほしい (6)
- ・入居期間を延長してほしい (3)
- ・清掃道具を多数備え付けてほしい (1)
- ・留学生課の事務について (自由記述)
- ・ほとんど問題を感じない (18)
- ・とても親切, やさしい (11)
- ・質問に対する答えが人によって違ったり, 説明が理解できないことがある (6)
- ・授業中にも携帯に連絡が入ることがある (4)
- ・気軽に声をかけたり接してくれた (3)
- ・岐阜大学の生活にはどのくらい満足しているか
- ・大変満足 (9)
- ・ほぼ満足 (12)
- ・普通 (6)

満足だった理由としては, 大学とその周辺環境が静かで空気もきれい, 人々が親切, 生活しやすい, 会館が大学に近くて便利, 大学の事務や生活上の手続きなどのシステムがきちんとしている, が記されており, 問題点としては, 図書館の開館時間が短すぎる, 指導教官から適切な指導が受けられない, 学部の事務の説明が不十分, 物価が高い, 買い物に不便, が挙げられていた。

* 日本での生活で一番大変だったことは何か (自由記述)

- ・日本語・・・特に読むこと, 書くこと, 漢字 (14)
- ・物価が高いため私費留学生には大変 (7)
- ・日本語だけでなく英語でのコミュニケーションが多いので苦勞している (2)
- ・いいアルバイトが見つからない (1)
- ・アルバイトする時間がない (1)
- ・妻子と離れて生活していること (1)
- ・規則が多い (1)
- ・案内 (掲示板, 大学内の表示) が不親切 (1)
- ・病気をしたか
- ・いいえ (19)
- ・はい (8)・・・自国から持ってきた薬を飲んだ (7)
大学の保健管理センターに行った (4)
病院に行った (連れていってもらった) (4)
部屋で寝ていた (2)
同国人の友人の看病を受けた (2)
太田先生の看病を受けた (2)

* 岐阜大学での一番の思い出は何か (自由記述)

- ・長野でのスキー教室 (15)
- ・センターの先生方とクラスの友達 (7)

- ・花見, 長良川の花火 (5)
 - ・白川郷への旅行 (3)
 - ・「RyugakuLove」の人たちとの長良川でのバーベキュー (2)
 - ・高山祭り, 祇園祭, 郡上踊り (2)
 - ・大学主催のバス旅行 (2)
 - ・友人との京都旅行 (2)
- * 次の学部での学びに不安はあるか
- ・無い (17)
 - ・少しある (5)
 - ・ある (5) ・ ・ ・ 日本語 (5) そして 英語 (1)

3. 本年度の活動の総括

就任以来 500 件をはるかに超えていた相談件数が昨年度より 500 件を切るようになり、わずかながら減少傾向を示している。これは既述したように、新規渡日留学生に対する各種のオリエンテーション、同国人の先輩留学生へのケアの依頼、留学生課との連携、などが効を奏しているものと実感している。留学生の相談は、家族・親族を含めた相談が増加し、内容的には複雑な様相を呈している。特に家族・親族の留学希望者を受け入れる場合は、すでに在籍している留学生を見て受け入れを判断してしまうのではなく、各学部による慎重な協議・決定を強く望みたい。

一部の日本人学生とは留学相談だけでなく、他団体による交流事業などを担当したため、参加者の応募から実施に至るまで種々の会合を持つ機会がかなり増え、多様な相談を受けることになった。留学生に関する各種業務は、日本人学生の協力なしには行ないえないものが多いが、「国際交流」に関心を持つ日本人学生の育成も考慮しつつ、相談室の窓口を広げていきたいと考えている。上記のような交流事業に協力することも、今後の留学生に対する各種の業務に必ずやプラスになって返ってくると確信している。

また、2001 年度後期から「日本語・日本文化研修プログラム」が開講されたが、日研生第 1 期生 8 名の来校は、日本人学生との交流を活発にし、郡上八幡など地域との交流にも大いに貢献することになった。これまでになかったプログラムとして、今後に期待していきたい。

これからも留学生の相談に携わりながら、各部署との連携によって、留学生にとって学びやすい環境を作っていきたいと考えている。